

第3章

④ 設備関係費

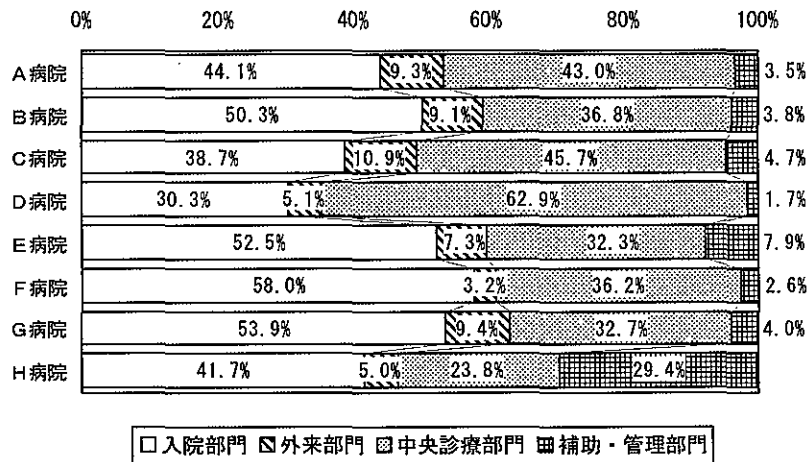
設備関係費を病院別にみると、入院部門が最も大きい病院はF病院で、全体の58.0%であった。

外来部門が最も大きい病院はC病院で、10.9%であった。

中央診療部門が最も大きい病院はD病院で、62.9%であった。

補助・管理部門ではH病院が最も大きく、29.4%であった。

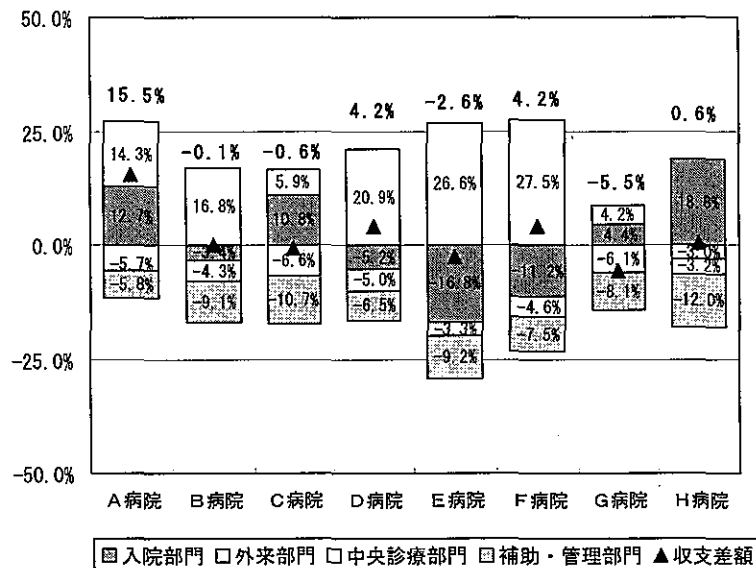
図表 3-19 一次計上結果（医業費用・設備関係費）



(ウ) 医業利益

医業収益合計を100としたときの各病院の医業利益率は、-2.6%~15.5%となっており、その部門別内訳は下記のとおりであった。

図表 3-20 一次計上結果（医業利益）

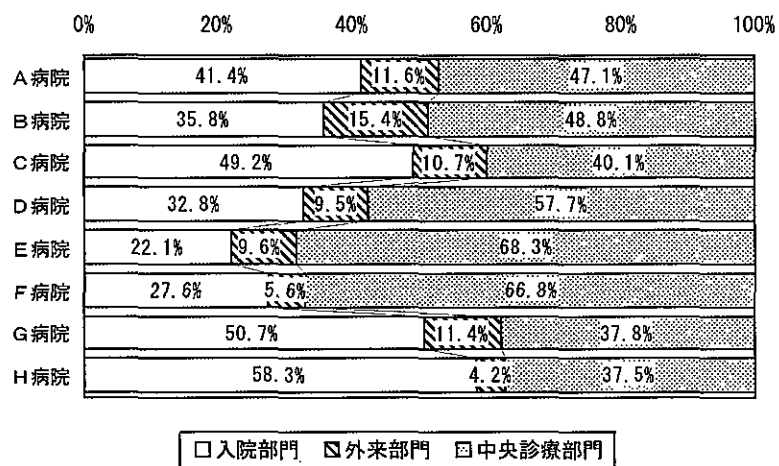


(2) 二次配賦結果

(ア) 医業収益合計

医業収益の二次配賦結果は、一次計上の結果（(1) (ア)）と同じである。

図表 3-21 二次配賦結果（医業収益）（再掲）



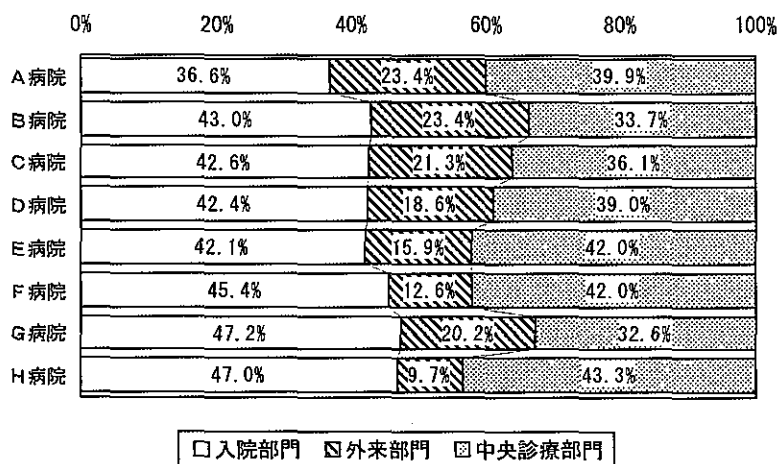
(イ) 医業費用合計

医業費用合計の構成比を病院別にみると、入院部門の比率が最も大きいのはG病院で、全体の47.2%を占めた。

外来部門では、A病院およびB病院の比率が最も大きく23.4%であった。

中央診療部門ではH病院が最も大きく43.3%であった。

図表 3-22 二次配賦結果（医業費用合計）



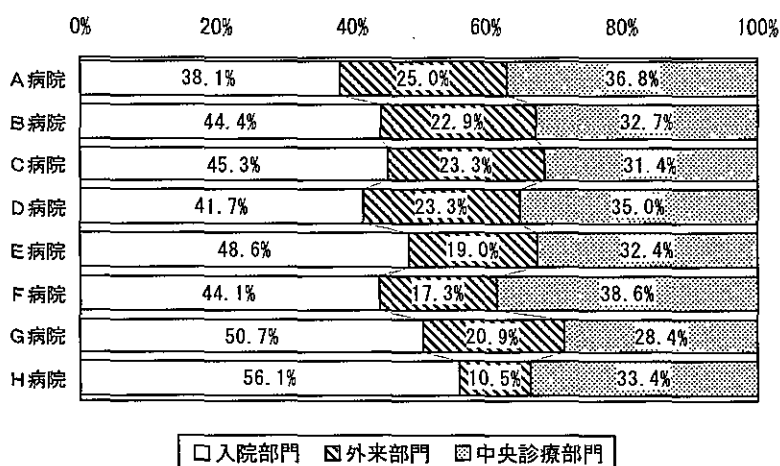
① 給与費

給与費を病院別にみると、入院部門の比率が大きいのは、H病院で、全体の56.1%を占めた。

外来部門では、A病院の比率が大きく25.0%であった。

中央診療部門ではF病院が最も大きく、38.6%であった。

図表 3-23 二次計上結果（医業費用・給与費）



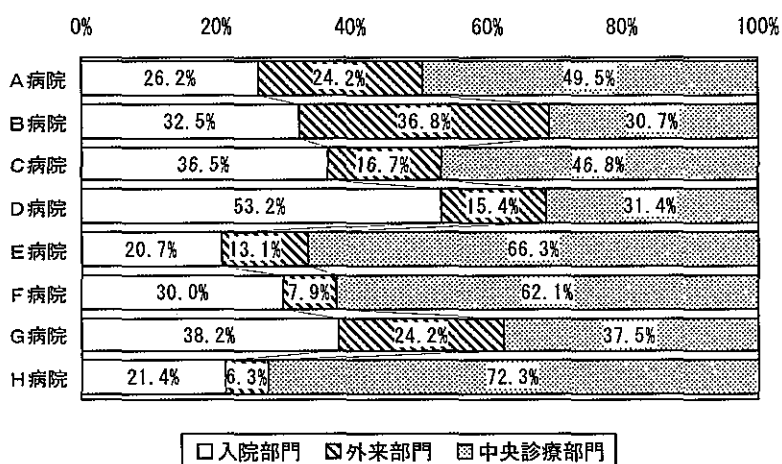
② 材料費

材料費を病院別にみると、入院部門の比率が大きいのは、D病院で、全体の53.2%を占めた。

外来部門では、B病院の比率が大きく36.8%であった。

中央診療部門ではH病院が最も大きく、72.3%であった。

図表 3-24 二次計上結果（医業費用・材料費）



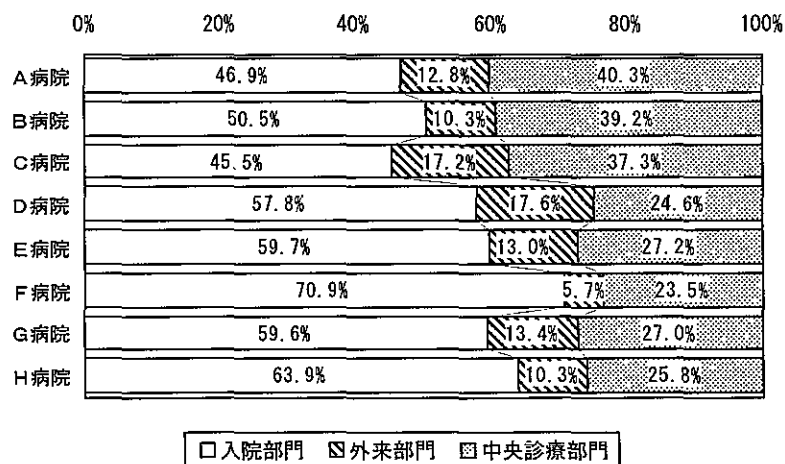
③ 経費

経費を病院別にみると、入院部門の比率が大きいのはF病院で、全体の70.9%を占めた。

外来部門では、D病院の比率が大きく17.6%であった。

中央診療部門ではA病院が最も大きく、40.3%であった。

図表 3-25 二次計上結果（医業費用・経費）



第3章

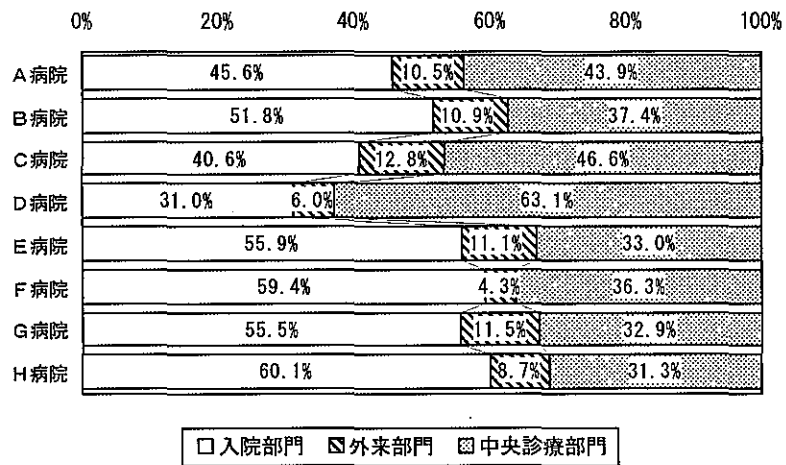
④ 設備関係費

設備関係費を病院別にみると、入院部門の比率が大きいのはH病院で、全体の60.1%を占めた。

外来部門では、C病院の比率が大きく12.8%であった。

中央診療部門ではD病院が最も大きく、63.1%であった。

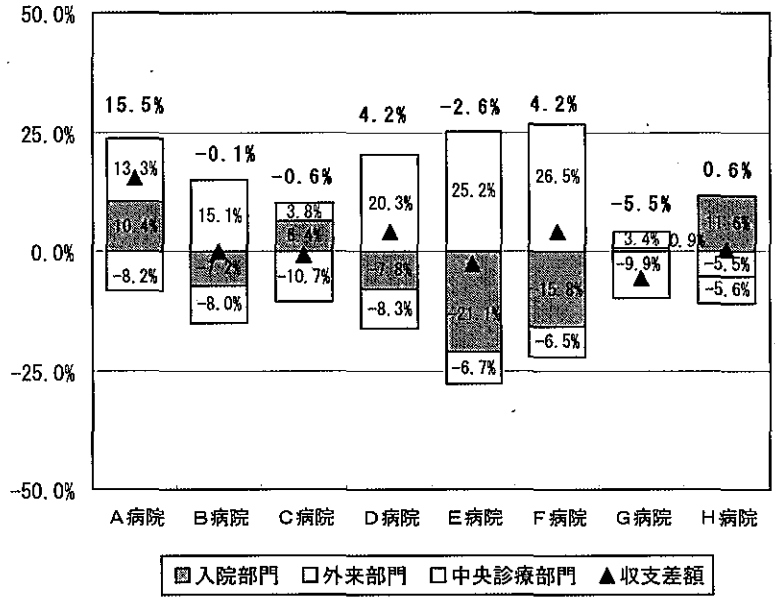
図表 3-26 二次計上結果（医業費用・設備関係費）



(ウ) 医業利益

二次配賦の結果から得られた各部門の医業収支へ寄与状況は図表 3-27 のとおりであった。

図表 3-27 二次配賦結果 (医業利益)



3.2.1.3. 医業収支および医業外収支における一次計上および二次配賦結果（参考）

(1) 一次計上結果

(ア) 医業収益および医業外収益合計

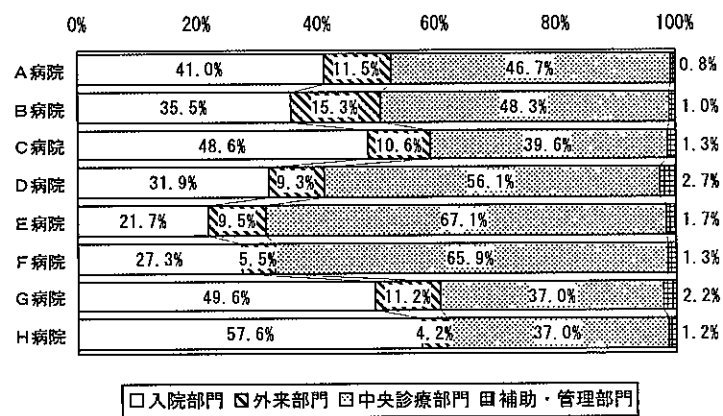
医業収益および医業外収益合計を病院別にみると、入院部門の比率が最も大きい病院はH病院で、全体の57.6%を占めた。

外来部門ではB病院の比率が最も大きく15.3%であった。

中央診療部門ではE病院が最も大きく67.1%であった。

医業外収益のみが計上される補助・管理部門では、D病院の比率が最も大きく2.7%であった。

図表 3-28 一次計上結果（医業収益および医業外収益合計）



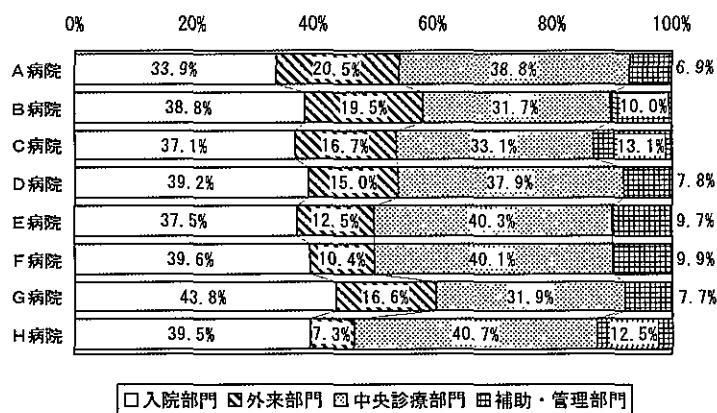
(イ) 医業費用および医業外費用合計

医業費用および医業外費用合計の構成比を病院別にみると、入院部門の比率が最も大きい病院はG病院で、全体の43.8%であった。

外来部門では、A病院の比率が最も大きく20.5%であった。

中央診療部門ではH病院が最も大きく40.7%、補助・管理部門ではC病院が最も大きく13.1%であった。

図表 3-29 一次計上結果（医業費用および医業外合計）



(2) 二次配賦結果

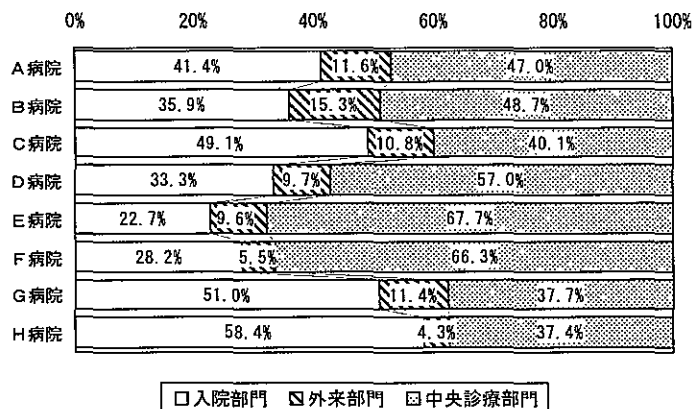
(ア) 医業収益および医業外収益合計

医業収益および医業外収益合計を病院別にみると、入院部門の比率が最も大きい病院はH病院で、全体の58.4%を占めた。

外来部門ではB病院の比率が最も大きく、15.3%であった。

中央診療部門ではE病院が最も大きく、67.7%であった。

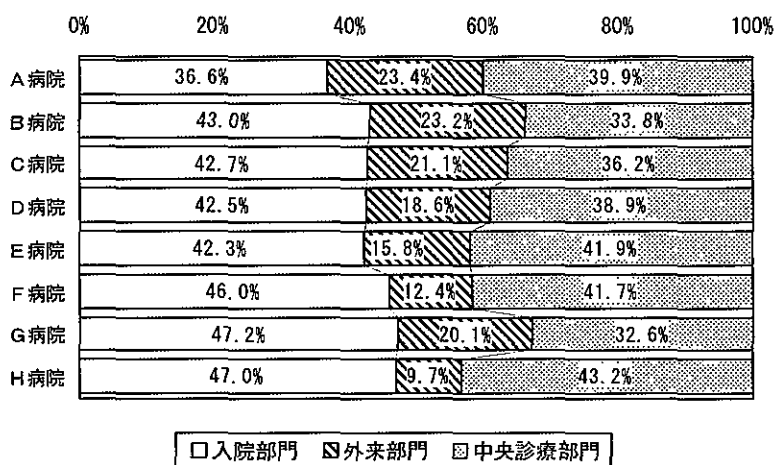
図表 3-30 二次配賦結果（医業収益および医業外収益合計）



(イ) 医業費用および医業外費用合計

医業費用および医業外費用合計の構成比を病院別にみると、入院部門の比率が最も高いのはG病院で、全体の47.2%を占めた。外来部門では、A病院の比率が最も高く23.4%であった。中央診療部門ではH病院が最も大きく43.2%であった。

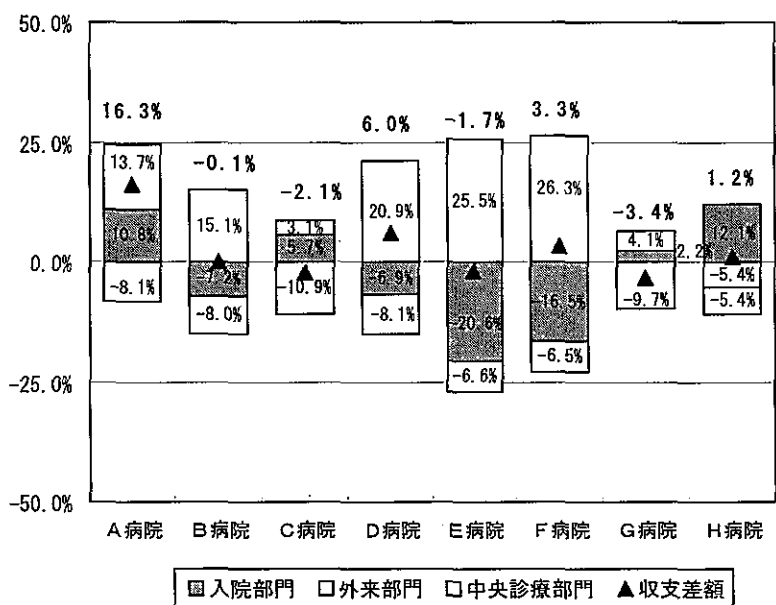
図表 3-31 二次配賦結果（医業費用および医業外費用合計）



(ウ) 医業利益および医業外利益

三次配賦の結果から得られた各部門の医業収支へ寄与状況は図表 3-32 のとおりであった。

図表 3-32 二次配賦結果（医業利益および医業外利益）



3.2.1.4. 三次配賦結果

三次配賦結果について、医業および医業外についてそれぞれ、内科系、外科系別に、患者1人1日当たりの収益と費用をみた。

ただし、内科系は「医療施設静態調査」病院票におけるグループⅠ、外科系はグループⅡに沿ったものとした。

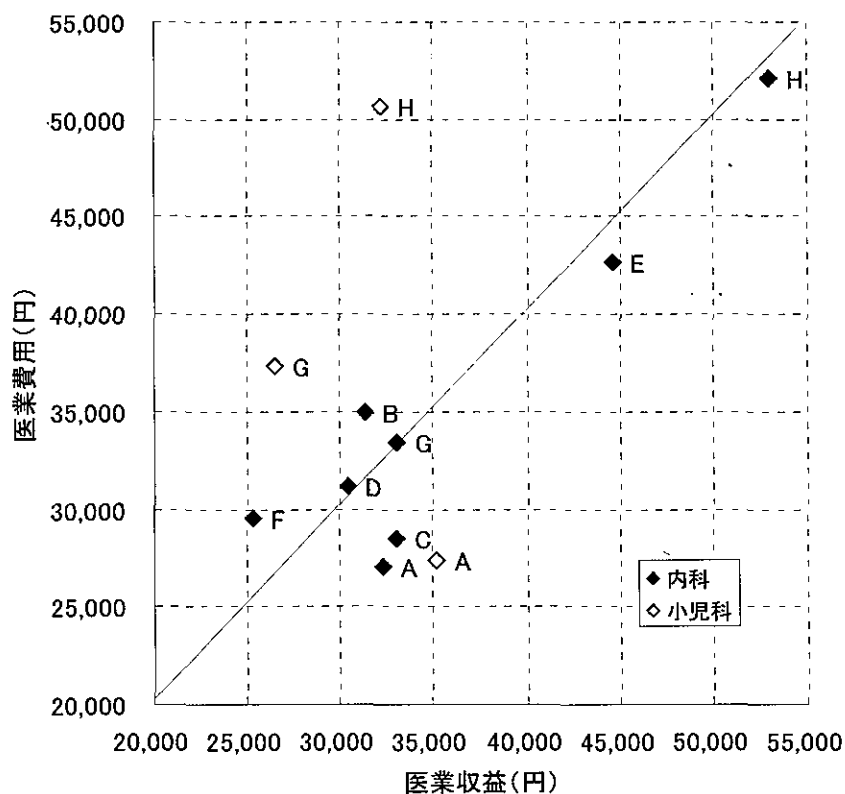
(1) 医業収支

(ア) 入院部門

① 内科系

入院部門の内科系における各診療科¹の患者1人1日当たりの医業収益と医業費用をみると、図表 3-33 のとおりであった。

図表 3-33 内科系三次配賦結果（患者1人1日当たり入院部門・医業費用／医業収益）



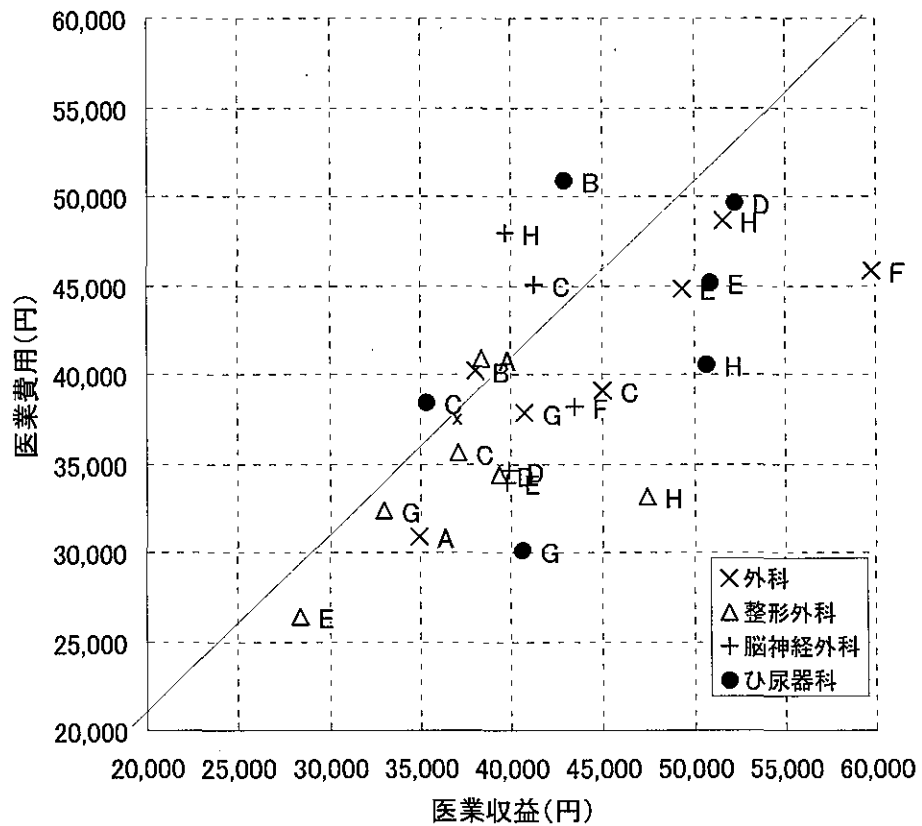
但し、アルファベットは、病院名を表す。

¹ 本分析では、内科、小児科を例にとりグラフ化した。

② 外科系

入院部門の外科系における各診療科²の患者1人1日当たりの医業収益と医業費用をみると、図表 3-34 のとおりであった。

図表 3-34 外科系三次配賦結果（患者1人1日当たり入院部門・医業費用／医業収益）



但し、アルファベットは、病院名を表す。

²本分析では、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科を例にとりグラフ化した。

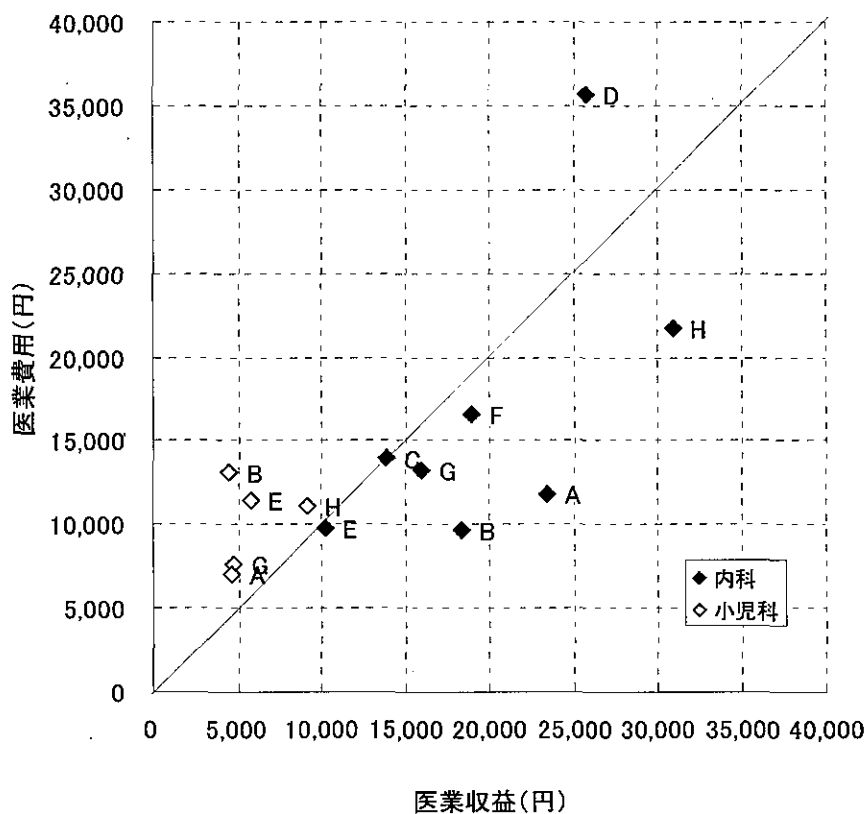
(イ) 外来部門

① 内科系

外来部門の内科系における各診療科³の患者1人1日当たりの医業収益と医業費用を診療科別にみると、多くの病院において小児科は赤字、内科は黒字であった。

また、内科では、小児科と比べてばらつきがみられた。

図表 3-35 内科系三次配賦結果（患者1人1日当たり外来部門・医業費用／医業収益）



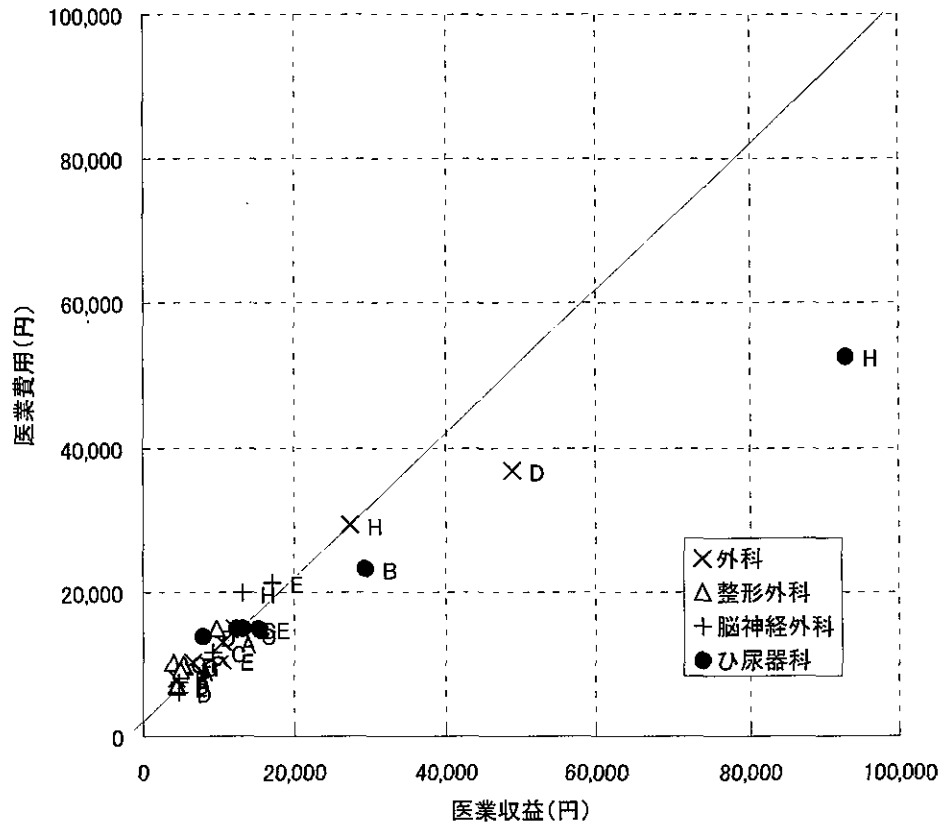
但し、アルファベットは、病院名を表す。

³本分析では、内科、小児科を例にとりグラフ化した。

② 外科系

外来部門の外科系における各診療科⁴の患者1人1日当たりの医業収益と医業費用をみると、赤字の診療科が多い。

図表 3-36 外科系三次配賦結果（患者1人1日当たり外来部門・医業費用／医業収益）



但し、アルファベットは、病院名を表す。

⁴本分析では、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科を例にとりグラフ化した。

(ウ) 入院部門・外来部門を合わせた結果 (参考)

病院全体について、診療科別収支計算を病院ごとに行った。

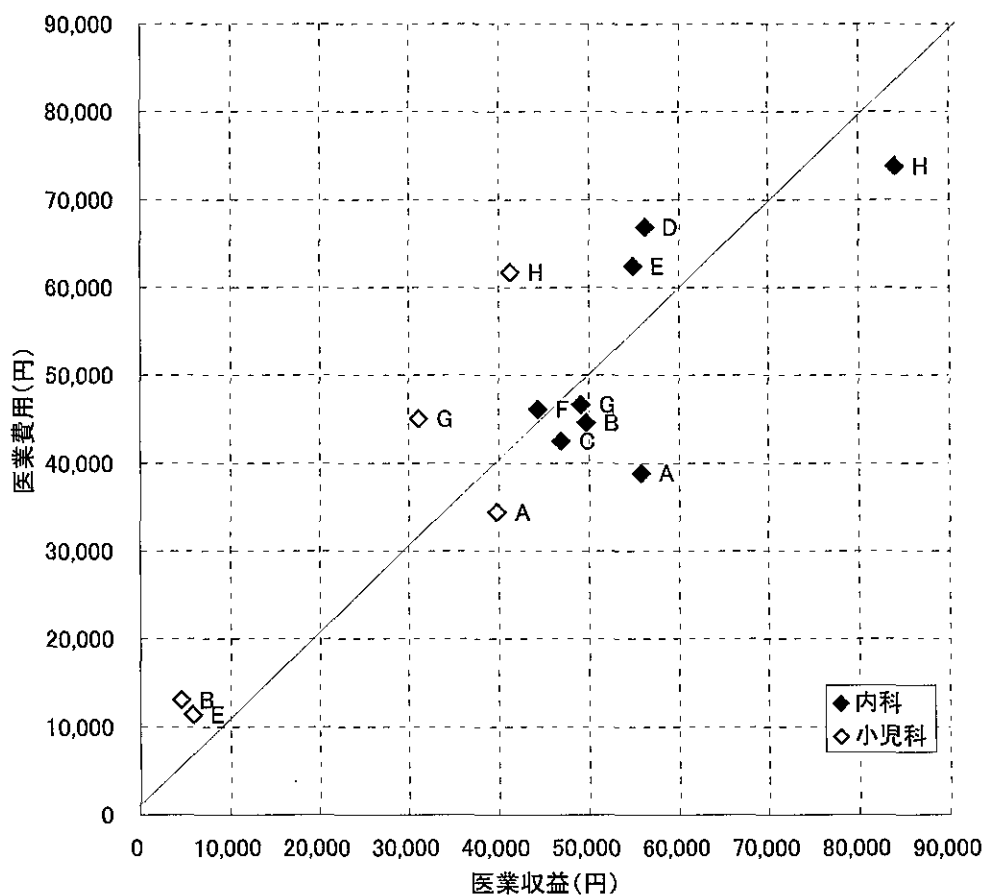
① 内科系

内科系診療科の結果は、図表 3-37 のとおりであった。

小児科は、A病院を除き、赤字であった。

ただし、B病院およびE病院における小児科は外来部門のみであった。

図表 3-37 内科系三次配賦結果 (患者1人1日当たり医業費用/医業収益)



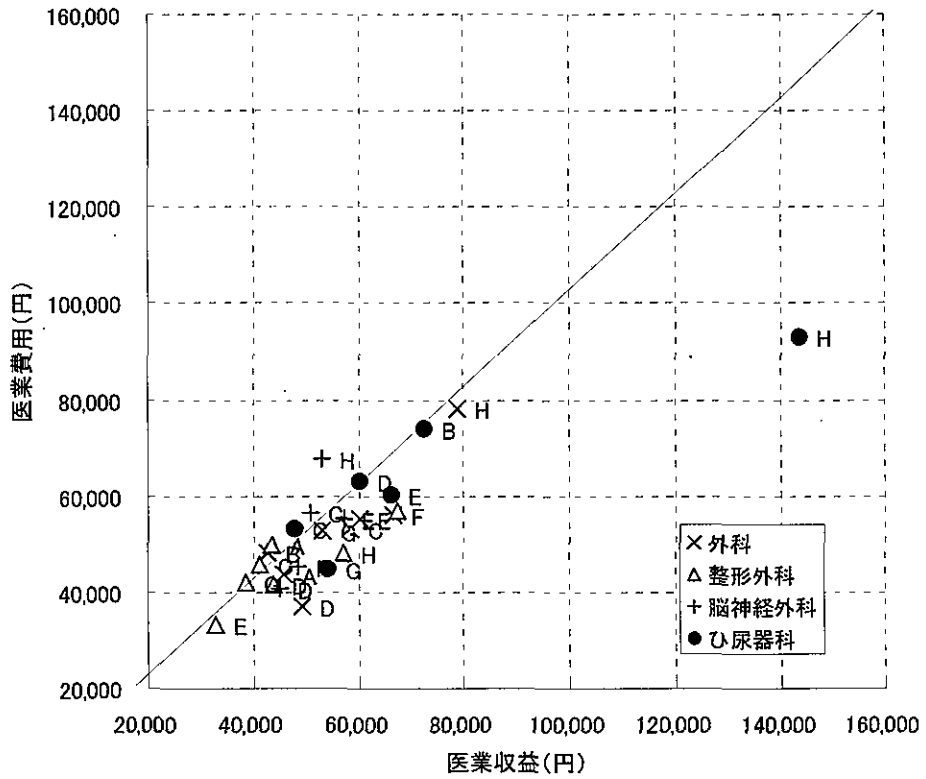
但し、アルファベットは、病院名を表す。

② 外科系

外科系診療科の結果は、図表 3-38 のとおりであった。

ただし、D病院の外科は外来部門のみであった。

図表 3-38 外科系三次配賦結果（患者1人1日当たり医業費用／医業収益）



但し、アルファベットは、病院名を表す。

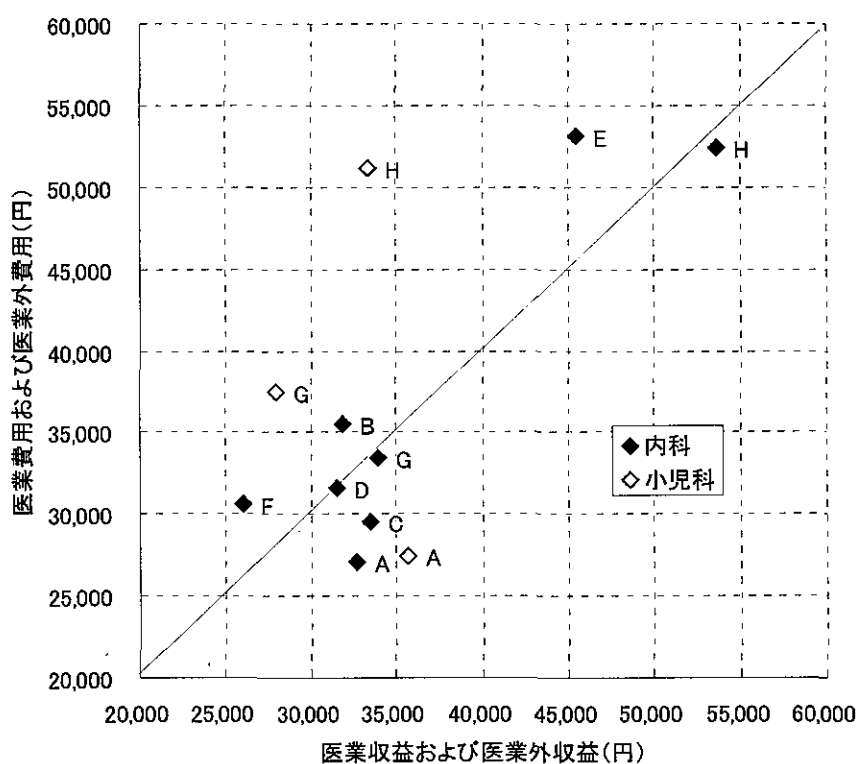
(2) 医業収支および医業外収支 (参考)

(ア) 入院部門

① 内科系

入院部門の内科系における各診療科⁵の患者1人1日当たりの医業収益と医業費用をみると、図表 3-39 のとおりであった。

図表 3-39 内科系三次配賦結果
(患者1人1日当たり入院部門・(医業費用および医業外費用) / (医業収益および医業外収益))



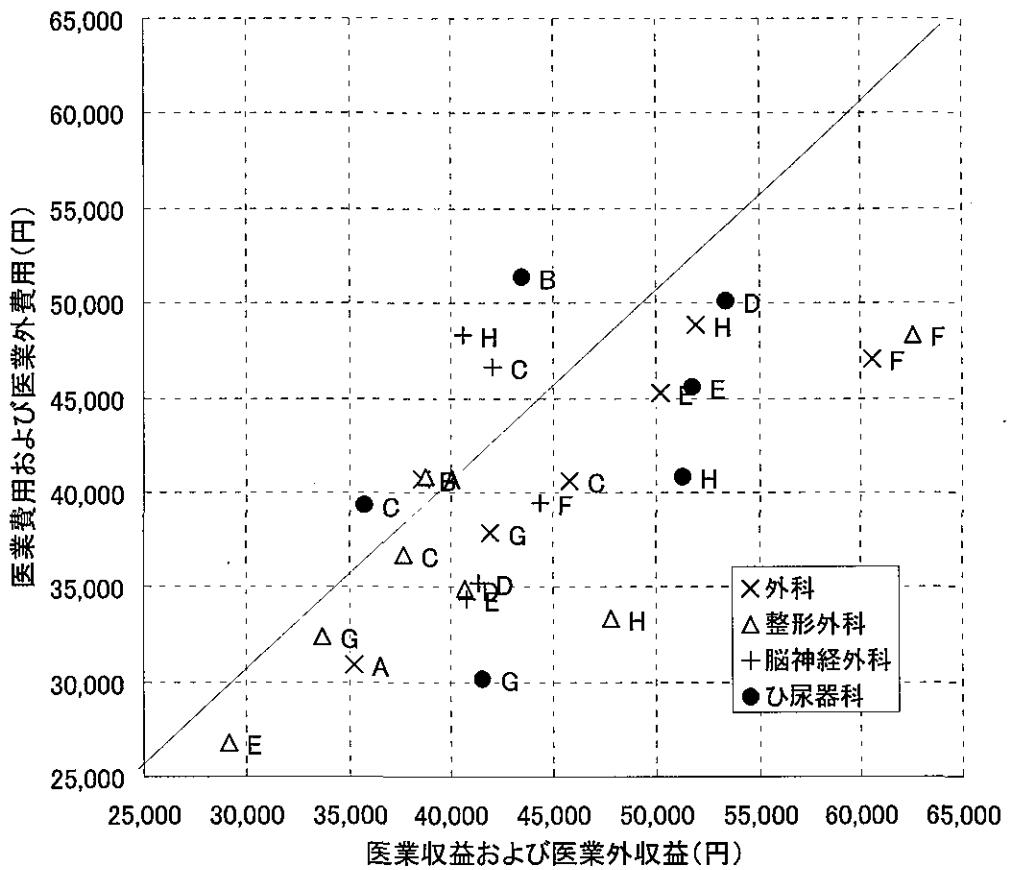
但し、アルファベットは、病院名を表す。

⁵ 本分析では、内科、小児科を例にとりグラフ化した。

② 外科系

入院部門の外科系における各診療科⁶の患者1人1日当たりの医業収益と医業費用をみると、図表 3-40 のとおりであった。

図表 3-40 外科系三次配賦結果
 (患者1人1日当たり入院部門・(医業費用および医業外費用) / (医業収益および医業外収益))



但し、アルファベットは、病院名を表す。

⁶本分析では、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科を例にとりグラフ化した。

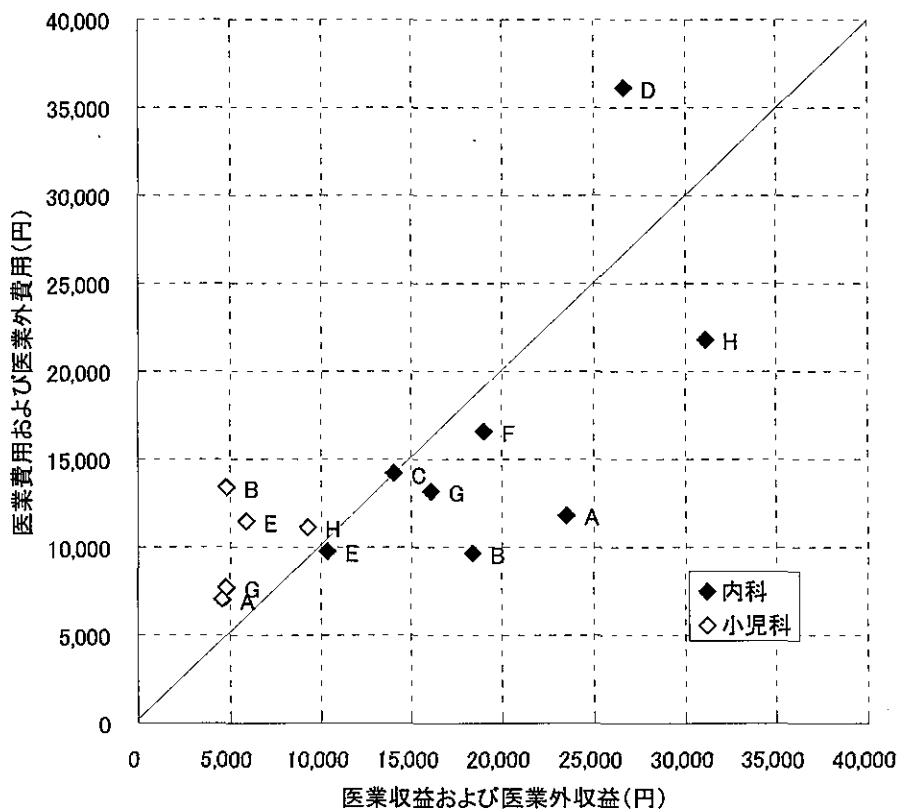
(イ) 外来部門

① 内科系

外来部門の内科系における各診療科⁷の患者1人1日当たりの医業および医業外収益と、医業および医業外費用を診療科別にみると、小児科は赤字、内科は1病院を除いて黒字であった。

また、内科では、小児科と比べてばらつきがみられた。

図表 3-41 内科系三次配賦結果
(患者1人1日当たり外来部門・(医業費用および医業外費用) / (医業収益および医業外収益))



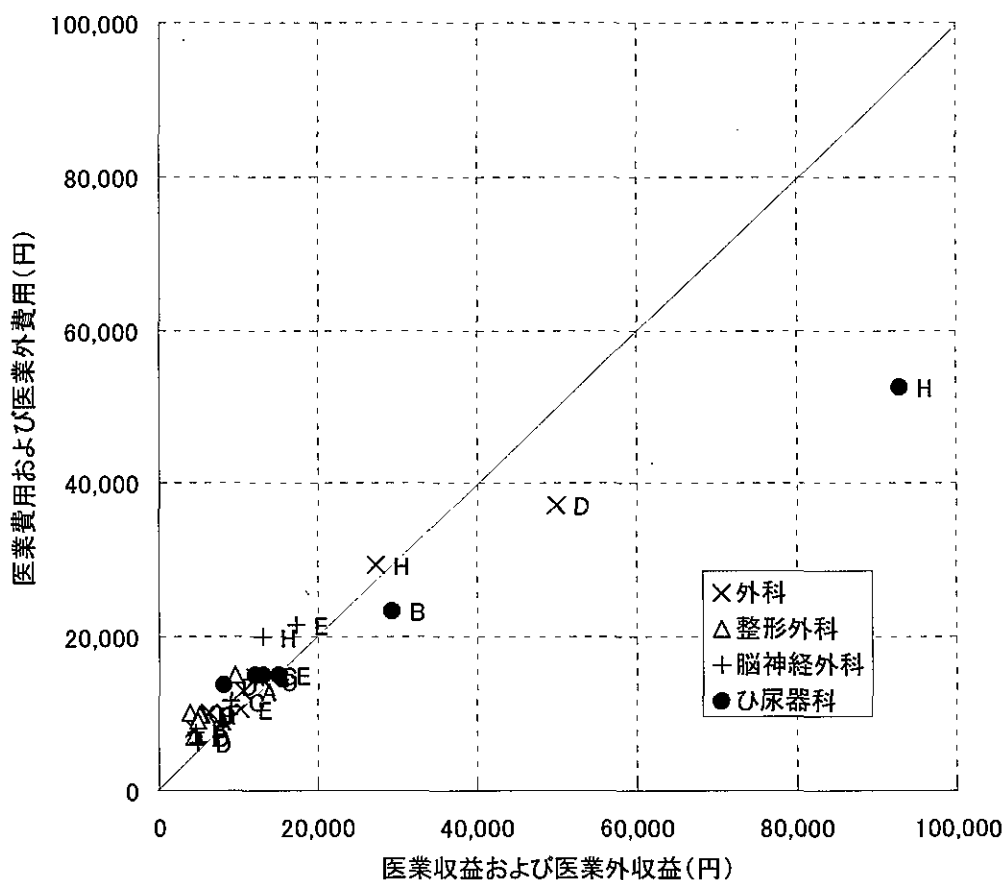
但し、アルファベットは、病院名を表す。

⁷本分析では、内科、小児科を例にとりグラフ化した。

② 外科系

外来部門の外科系における各診療科⁸の患者1人1日当たりの医業収益と医業費用をみると、赤字の診療科が多い。

図表 3-42 外科系三次配賦結果
(患者1人1日当たり外来部門・(医業費用および医業外費用) / (医業収益および医業外収益))



但し、アルファベットは、病院名を表す。

⁸本分析では、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科を例にとりグラフ化した。

(ウ) 入院部門・外来部門を合わせた結果 (参考)

病院全体について、診療科別収支計算を病院ごとに行った。

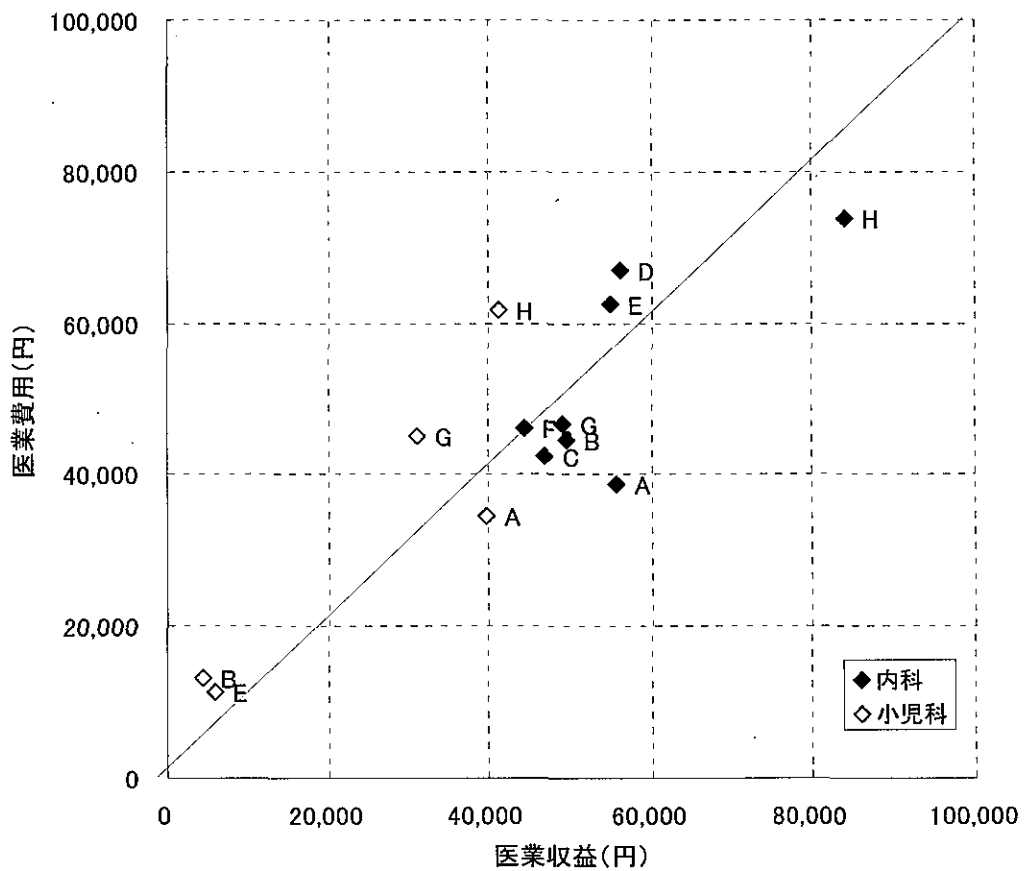
① 内科系

内科系診療科の結果は、図表 3-43 のとおりであった。

小児科は、A病院を除き、赤字であった。

ただし、B病院およびE病院における小児科は外来部門のみであった。

図表 3-43 内科系三次配賦結果
(患者1人1日当たり (医業費用および医業外費用) / (医業収益および医業外収益))



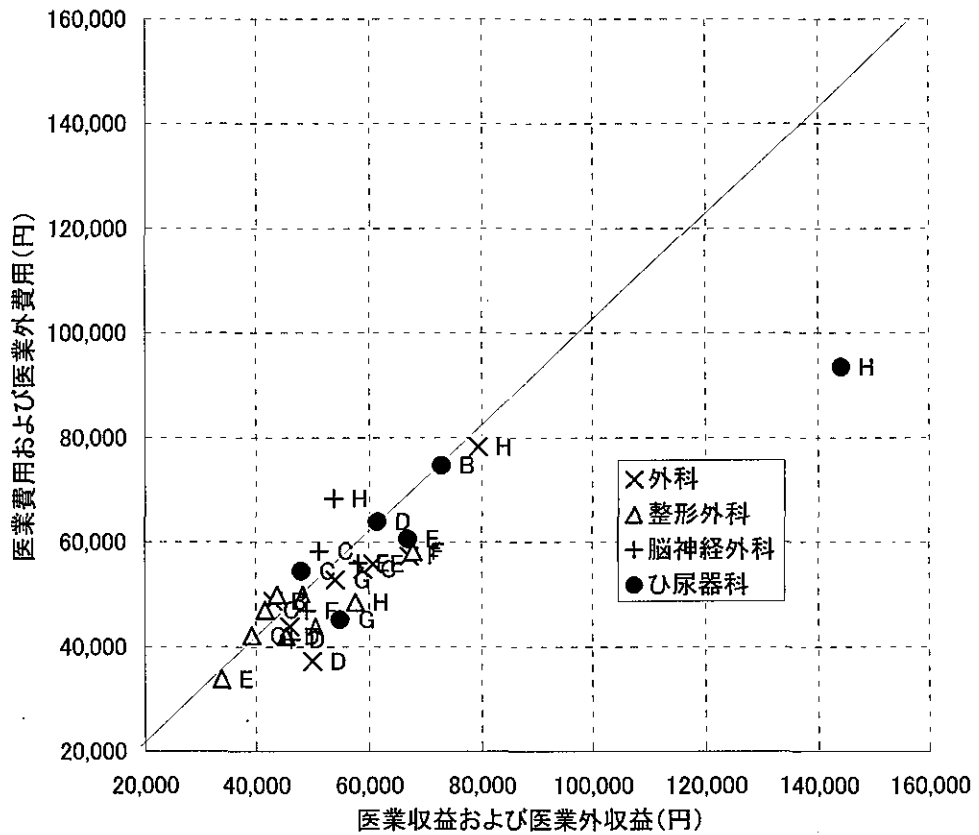
但し、アルファベットは、病院名を表す。

② 外科系

外科系診療科の結果は、図表 3-44 のとおりであった。

ただし、D病院の外科は外来部門のみであった。

図表 3-44 外科系三次配賦結果
 (患者1人1日当たり (医業費用および医業外費用) / (医業収益および医業外収益))



但し、アルファベットは、病院名を表す。

3.2.1.5. 収支計算例

(1) 入院・外来別の診療科ごとの収支計算例（全体）

全病院（計8病院）に対する入院・外来別の診療科ごとの収支計算を行った（図表 3-45）。

各計算結果は、施設全体の収益額を100とした場合の割合とした（数値）。

さらに、診療科別の収支構造を明らかにするため、各部門による項目別部門合計への寄与率を計算した（カッコ付数値）。

ただし、各項目の割合は、各病院について計算した割合に対し、さらに全病院について単純平均値を算出したものである。

よって、病院の特性を含んでおらず、計算例とした。

図表 3-45 に示したとおり、入院部門は施設全体の医業収益の約7割、外来部門は約3割を占めた。医業費用については、入院部門が約7割、外来部門が約3割であった。

医業利益については、入院部門で2.8%の黒字、外来部門で1.9%の赤字であった。

診療科別にみると、入院部門では外科が0.9%の黒字、循環器科、小児科、産婦人科が0.8%の赤字であった。外来部門では内科が2.5%の黒字、整形外科が1.0%の赤字であった。

医業利益および医業外利益の合算値については、入院部門で3.4%の黒字、外来部門で1.8%の赤字であった。

診療科別にみると、入院部門では外科が0.9%の黒字、小児科が0.8%の赤字であった。外来部門では内科が2.5%の黒字、整形外科が1.0%の赤字であった。